

注3

大学番号：026

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

いわき明星大学 看護学部 看護学科

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人いわき明星大学  
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 カクチョウソ 学長室 シツチョウ 室長 ミヤコシ 宮腰 トシユキ 俊行

電話番号 0246-29-7162

（夜間） 0246-29-5111

F A X 0246-29-7109

e-mail kikaku@iwakimu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

( )書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 看護学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	P.1
2. 授業科目の概要	P.5
3. 施設・設備の整備状況、経費	P.11
4. 既設大学等の状況	P.13
5. 教員組織の状況	P.15
6. 留意事項等に対する履行状況等	P.29
7. その他全般的事項	P.33

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人いわき明星大学

## (2) 大学名

いわき明星大学

## (3) 大学の位置

〒970-8551

福島県いわき市中央台飯野5-5-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ テツオ) 小川 哲生 (平成27年8月)		
学長	(ヤマザキ ヨウジ) 山崎 洋次 (平成25年4月)		
学部長	(クメ ミヨコ) 久米 美代子 (平成29年4月)		
学科長等	(クロダ マリコ) 黒田 眞理子 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	— 人	— 人	平成26年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
			平成27年度	— 人	— 人	—	
			平成28年度	— 人	— 人	—	
			平成29年度	— 人	— 人	—	
平成27年度 入学者	— 人	— 人	平成27年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
			平成28年度	— 人	— 人	—	
			平成29年度	— 人	— 人	—	
平成28年度 入学者	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	—	#VALUE! %
			平成29年度	— 人	— 人	—	
平成29年度 入学者	86 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	—	0.00 %
合 計	86 人	0 人					0.00 %

(注)・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要ありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 80 ( ) [ ]		1.07倍	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	160 ( ) [ ]			
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	157 ( ) [ ]			
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	134 ( ) [ ]			
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	86 ( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	1.07			

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	86 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	
2年次	/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	
3年次	/		/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	
4年次	/		/		/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	
計	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	86 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

## 2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
初年次教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			6	1	3	3			
	小計(1科目)	—	2	0	0	6	1	3	3	0		
リテラシー教育科目	日本語リテラシー	1前	1								兼 3	
	コンピュータリテラシー	1前	1								兼 2	
	小計(2科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	兼 5	
外国語教育科目	英語A1	1前	1								兼 4	
	英語A2	1後	1								兼 4	
	英語B1	1前	1								兼 3 兼 4 兼担教員退職(29) 川井一枝(准教授)退職 他に担当教員がいるため支障はない	
	英語B2	1後	1								兼 3 兼 4 兼担教員退職(29) 川井一枝(准教授)退職 他に担当教員がいるため支障はない	
	英語C1	2・3・4前	1								兼 3 兼 4 兼担教員退職(29) 川井一枝(准教授)退職 他に担当教員がいるため支障はない	
	英語C2	2・3・4前	1								兼 3 兼 4 兼担教員退職(29) 川井一枝(准教授)退職 他に担当教員がいるため支障はない	
	中国語1	2・3・4前		1							兼 1	
	中国語2	2・3・4前		1							兼 1	
	韓国語1	2・3・4前		1							兼 1	
	韓国語2	2・3・4前		1							兼 1	
	小計(10科目)	—	6	4	0	0	0	0	0	0	兼 7 兼 8 兼担教員退職(29) 川井一枝(准教授)退職	
全学共通教育科目	人文科学分野	哲学の世界	1・2・3・4前		2							兼 1
		ことばの科学	1・2・3・4前		2							兼 1
		心の科学	1・2・3・4前		2							兼 1
		世界の歴史と文化	1・2・3・4前		2							兼 1
		倫理学の世界	1・2・3・4後		2							兼 1
		芸術の世界	1・2・3・4後		2							兼 1
		文学の世界	1・2・3・4後		2							兼 1
		日本の歴史と文化	1・2・3・4後		2							兼 1
	小計(8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	兼 7	
	一般教養科目	社会科学分野	法学入門	1・2・3・4前		2						
経済学入門			1・2・3・4前		2							兼 1
社会学入門			1・2・3・4前		2							兼 1
災害からの復興			1・2・3・4前		2							兼 1
暮らしのなかの憲法			1・2・3・4後		2							兼 1
経営学入門			1・2・3・4後		2							兼 1
ジェンダー論			1・2・3・4後		2							兼 1
政治学入門			1・2・3・4後		2							兼 1
小計(8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	兼 7		
自然科学分野	自然科学のあゆみ	健康と薬	1・2・3・4前		2							兼 2
		統計のしくみ	1・2・3・4前		2							兼 3
		生命の科学	1・2・3・4後		2							兼 1
		食品の科学	1・2・3・4後		2							兼 1
		地球環境の科学	1・2・3・4後		2							兼 2
		小計(6科目)	—	0	12	0	0	0	0	0	0	兼 10

健康・スポーツ教育科目	健康の科学	1前	2									兼 2	
	健康・スポーツ1	1・2・3・4前	1									兼 3	
	健康・スポーツ2	1・2・3・4後	1									兼 3	
	小計(3科目)	—	4	0	0	0	0	0	0	0	0	兼 4	
専門基礎分野	人体の構造と機能1	1前	2			1							
	人体の構造と機能2	1前	2			1							
	生化学	1前	2				1						
	人間栄養学	1後	2				1						
	微生物学	1前	2									兼 1	
	薬理学	1後	2			1	1						
	臨床心理学	2前	1									兼 1	
	疾病治療論1	1後	2									兼 1	
	疾病治療論2	2前	2									兼 1	
	疾病治療論3	4前	1									兼 1	
	放射線と環境	1後	1									兼 1	
	放射線と人体	2後	1									兼 1	
	社会福祉学	2前	2									兼 1	
	公衆衛生学	2前	2				1						
保健統計学	2前		2			1							
疫学	3前		2			1							
保健医療福祉行政論	3後		2								兼 1		
小計(17科目)	—	24	6	0	2	1	0	0	0	0	兼 6		
基礎看護学	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	1						
	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			2	1	1	1	2			
	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	1	2	1	2			
	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	2	1	1	2			
	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	2	1	1	2			
	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	1	1	2	2		兼 1	
	看護実践基盤学実習(基礎)1	1後	1			0	2	-4	-8	2			
	看護実践基盤学実習(基礎)2	2前	2			0	2	-4	-8	2			
成人看護学	生涯発達看護学(成人)	1後	1			2							
	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			2							
	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			1			1				
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			1		1					
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			1	1						
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			1	1						
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			2	1	1	2	3			
老年看護学	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1							
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1							
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	1						
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3	1	2		2			
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			3	1	1		3			
母性看護学	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1							
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1							
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	1				
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	2	5			
小児看護学	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1							
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			0							
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			1				
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1			2	5			

専任教員就任辞退(29)  
 (鈴木裕子(講師)就任辞退  
 片寄泰子(助教)就任辞退  
 他に担当教員がいるため支障はない  
 専任教員就任辞退(29)  
 (鈴木裕子(講師)就任辞退  
 片寄泰子(助教)就任辞退  
 平成30年4月後任補充予定

専任教員就任辞退(29)  
 (藤岡寛(教授)就任辞退  
 他に担当教員がいるため支障はない  
 専任教員就任辞退(29)  
 (藤岡寛(教授)就任辞退  
 平成30年4月後任補充予定  
 専任教員就任辞退(29)  
 (藤岡寛(教授)就任辞退  
 平成30年4月後任補充予定  
 専任教員就任辞退(29)  
 (藤岡寛(教授)就任辞退  
 平成30年4月後任補充予定



精神看護学	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1															
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1															
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1															
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			1					1	3									
	小計(32科目)	—	53	0	0	8 <del>-9</del>	3	5 <del>-6</del>	7 <del>-8</del>			5								専任教員就任辞退(29) 藤岡寛(教授)就任辞退 鈴木裕子(講師)就任辞退 片寄泰子(助教)就任辞退	
在宅看護論	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			3															専任教員就任辞退(29)
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			3		0 <del>-1</del>	1												鈴木裕子(講師)就任辞退 平成30年4月後任補充予定
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			2		1 <del>-2</del>													専任教員就任辞退(29) 鈴木裕子(講師)就任辞退 平成30年4月後任補充予定
統合分野	看護倫理	3前	1			1															
	チーム医療	3前	1			1	1	2	1			兼 2									
	看護マネジメント	3前	1			1	0	1				兼 1									
	医療安全	3前	1									兼 1									
	国際看護活動論	3後	1			2						兼 1									
	放射線と健康支援	3後	1									兼 1									
	災害看護	4前	1			1															
	災害看護演習	4前	1			2			1												
	訪問看護マネジメント	4前	1			2															
	リハビリテーション看護論	4前		1		1						兼 1									
	コンサルテーション論	4前		1								兼 1									
	緩和ケア	4前		1		2	1					兼 1									
	クリティカルケア	4前		1					1												
	看護学シミュレーション	3前	1			4 <del>-5</del>	2	5 <del>-6</del>	7 <del>-8</del>			2									専任教員就任辞退(29) 藤岡寛(教授)就任辞退 鈴木裕子(講師)就任辞退 片寄泰子(助教)就任辞退 平成30年4月後任補充予定
	看護学統合実習	4後	2			3 <del>-4</del>	2	5 <del>-6</del>	7 <del>-8</del>			2									専任教員就任辞退(29) 藤岡寛(教授)就任辞退 鈴木裕子(講師)就任辞退 片寄泰子(助教)就任辞退 平成30年4月後任補充予定
看護援助技術レファレンス	4前	2			1 <del>-2</del>	1	2	5 <del>-6</del>			2									専任教員就任辞退(29) 藤岡寛(教授)就任辞退 片寄泰子(助教)就任辞退 平成30年4月後任補充予定	
看護研究	3後	1				1															
卒業研究	4通	2			11 <del>-12</del>	4	4 <del>-5</del>													専任教員就任辞退(29) 藤岡寛(教授)就任辞退 鈴木裕子(講師)就任辞退 平成30年4月後任補充予定	
	小計(21科目)	—	23	4	0	11 <del>-12</del>	4	5 <del>-6</del>	7 <del>-8</del>			5	兼 5								専任教員就任辞退(29) 藤岡寛(教授)就任辞退 鈴木裕子(講師)就任辞退 片寄泰子(助教)就任辞退

保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1															
	公衆衛生看護方法論1	4前			2	1			1												
	公衆衛生看護方法論2	4前			2	1			1												
	公衆衛生看護活動論	4前			2	1			1												
	学校保健・産業保健	3後			2	1															
	公衆衛生看護管理論	4後			2	1			2												
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1			1												
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1			1												
小計(8科目)		—	0	0	17	1	0	—	1	0	2									専任教員就任辞退(29) (鈴木裕子(講師)就任辞退 平成30年4月後任補充予定 専任教員就任辞退(29) (鈴木裕子(講師)就任辞退 平成30年4月後任補充予定	
合計(116科目)		—	114	58	17	—	4	—	5	7	5									兼 44 —	専任教員就任辞退(29) (藤岡寛(教授)就任辞退 鈴木裕子(講師)就任辞退 片寄泰子(助教)就任辞退 兼任教員退職(29) (川井一枝(准教授)退職

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
75	33	8	116	—	—	—	—	
				[ — ]	[ — ]	[ — ]	[ — ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。  
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。  
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{116} = \boxed{\phantom{00}}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。  
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 平成29年4月 用途変更のため(29)		
	校舎敷地	145,860㎡	0㎡	0㎡	145,860㎡			
	運動場用地	53,000㎡	0㎡	0㎡	53,000㎡			
	小 計	198,860㎡	0㎡	0㎡	198,860㎡			
	そ の 他	264,767㎡ 257,494㎡	0㎡	0㎡	264,767㎡ 257,494㎡			
	合 計	463,627㎡ 456,354㎡	0㎡	0㎡	463,627㎡ 456,354㎡			
(2) 校 舎	専 用	44,652㎡	0㎡	0㎡	44,652㎡	大学全体		
		(44,652㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(44,652㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	平成29年4月 用途変更のため(29)		
	40 室	10 31 室	81 105 室	3 室 (補助職員 人)	1 室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	看護学部 看護学科			33 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書]				点
	看護学部	3,375 [405]	22 [ 5]	5 [ 5]	75	725	29	
		(2,665 [285])	( 22 [ 5])	( 0 [ 0])	( 50 )	(672)	(19)	
計	3,375 [405]	22 [ 5]	5 [ 5]	75	725	29		
		(2,665 [285])	( 22 [ 5])	( 0 [ 0])	( 50 )	(672)	(19)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	4917㎡		442		288,500冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	4,513㎡		陸上競技場1面、野球場1面、テニスコート10面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	150千円	150千円	図書購入費	15,560千円	9,935千円	6,398千円
	共 同 研 究 費 等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	86,116千円	0千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	いわき明星大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
<< A C 対象学部等 >> 看護学部 看護学科 (学部) 科学技術学科 人文学部 表現文化学科 現代社会学科 心理学科 薬学部 薬学科 教養学部 地域教養学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.07	平成28年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
	4	-	-	-	学士 (理工学)	-	平成22年度	同上	平成27年より学生募集停止(科学技術学科)
	4	-	-	-	学士 (文学)	-	平成17年度	同上	平成27年より学生募集停止(表現文化学科・現代社会学科・心理学科)
	4	-	-	-	学士 (社会学)	-	昭和62年度	同上	
	4	-	-	-	学士 (心理学)	-	平成13年度	同上	
	6	90	-	540	学士 (薬学)	0.85	平成19年度	同上	平成23年より入学定員変更(薬学科150→90)
	4	120	-	480	学士 (教養)	0.5	平成26年度	同上	
(大学院)									
理工学研究科									
(修士課程)									
物質理学専攻	2	7	-	14	修士 (物質理学)	0.28	平成4年度	同上	平成23年より入学定員変更(物質理学専攻15→7、物理工学専攻20→7)
物理工学専攻	2	7	-	14	修士 (物理工学)	0.00	平成4年度	同上	
(博士課程)									平成29年より学生募集停止(物理工学専攻)
物質理工学専攻	3	2	-	6	博士 (理工学)	0.33	平成6年度	同上	平成23年より入学定員変更(物質理工学専攻5→2)
人文学研究科									
(修士課程)									
日本文学専攻	2	5	-	10	修士 (日本文学)	0.00	平成4年度	同上	
英米文学専攻	2	5	-	10	修士 (英米文学)	0.00	平成7年度	同上	
社会学専攻	2	5	-	10	修士 (社会学)	0.00	平成4年度	同上	
臨床心理学専攻	2	10	-	20	修士 (臨床心理学)	0.50	平成17年度	同上	
(博士課程)									
日本文学専攻	3	2	-	6	博士 (日本文学)	0.16	平成6年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。



5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	久米 美代子 (69)	平成29年4月	フレッシューズセミナー 看護実践基盤学Ⅰ (看護学原論) 生涯発達看護学 (母性) 健康生活看護学 (母性概論) 健康生活看護学 (母性援助) 健康生活看護学実習 (母性) 看護倫理 卒業研究						
専任	教授	林 正幸 (67)	平成29年4月	フレッシューズセミナー 公衆衛生学 保健統計学 疫学 災害看護演習 卒業研究						
専任	教授	鹿児島 正豊 (72)	平成29年4月	フレッシューズセミナー 人体の構造と機能1 人体の構造と機能2 薬理学 卒業研究						
専任	教授	臼井 千津 (65)	平成29年4月	生涯発達看護学 (成人) 健康生活看護学 (成人概論) 健康生活看護学 (成人・急性期) 健康生活看護学 (成人・周手術期) 健康生活看護学実習 (成人) 地域養生看護学 (在宅概論) 地域養生看護学 (在宅援助) 災害看護 災害看護演習 訪問看護マネジメント 看護学シミュレーション 卒業研究						
専任	教授	古地 順子 (61)	平成29年4月	看護実践基盤学Ⅰ (看護学原論) 看護実践基盤学Ⅱ (コミュニケーション) 生涯発達看護学 (成人) 健康生活看護学 (成人概論) 健康生活看護学 (成人・慢性期) 健康生活看護学 (成人・回復終末期) 健康生活看護学実習 (成人) リハビリテーション 看護論 卒業研究						

専任	教授	橋本 知子 (67)	平成29年4月	<p>フレッシュセミナー 生涯発達看護学 (老年) 健康生活看護学 (老年概論) 健康生活看護学 (老年援助) 健康生活看護学 実習(老年)1 健康生活看護学 実習(老年)2 卒業研究</p>					
専任	教授	藤岡 寛 (42)	平成29年4月	<p>生涯発達看護学 (小児) 健康生活看護学 (小児概論) 健康生活看護学 (小児援助) 健康生活看護学 実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術 レファレンス 卒業研究</p>				<p>生涯発達看護学 ——(小児) 健康生活看護学 ——(小児概論) 健康生活看護学 ——(小児援助) 健康生活看護学 ——実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術 ——レファレンス 卒業研究</p>	<p>平成29年3月 藤岡寛教授就任辞退(29) 「後任未定」平成30年4月 から専任教員採用予定 なお、1年次担当の生涯発達 看護学(小児)は、 他に担当教員がいるため 支障はない</p>
専任	教授	レンデンマン 美智子 (64)	平成29年4月	<p>フレッシュセミナー 生涯発達看護学 (小児) 健康生活看護学 (小児援助) 健康生活看護学 実習(小児) 国際看護活動論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究</p>					
専任	教授	荒井 春生 (54)	平成29年4月	<p>看護実践基盤学 I(看護学原論) 看護実践基盤学 II(コミュニケーション) 看護実践基盤学 III(アセスメント技術) 看護実践基盤学IV (生活援助技術) 看護実践基盤学V (診療補助技術) 看護実践基盤学VI (看護過程) 健康生活看護学 (精神概論)1 健康生活看護学 (精神概論)2 健康生活看護学 (精神援助) 健康生活看護学 実習(精神) チーム医療 緩和ケア 卒業研究</p>					
専任	教授	小林 紀明 (52)	平成29年4月	<p>フレッシュセミナー 健康生活看護学 実習(老年)1 健康生活看護学 実習(老年)2 地域養生看護学 (在宅概論) 地域養生看護学 (在宅援助) 地域養生看護学 実習(在宅) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス 卒業研究</p>					

専任	教授	スーティー 神崎和代 (65)	平成29年4月	健康生活看護学 実習(老年)1 健康生活看護学 実習(老年)2 地域養生看護学 (在宅概論) 地域養生看護学 (在宅援助) 地域養生看護学 実習(在宅) 看護マネジメント 国際看護活動論 訪問看護マネジメント 緩和ケア 卒業研究
専任	教授	黒田 真理子 (66)	平成29年4月	看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護学 概論 公衆衛生看護学 方法論1 公衆衛生看護学 方法論2 公衆衛生看護学 活動論 学校保健・産業 保健 公衆衛生看護学 管理論 公衆衛生看護学 実習A 公衆衛生看護学 実習B
専任	准教授	富岡 節子 (60)	平成29年4月	フレッシュースミナ ー 生化学 人間栄養学 薬理学 チーム医療 緩和ケア 卒業研究
専任	准教授	山邊 素子 (53)	平成29年4月	看護実践基盤学 I(看護学原論) 看護実践基盤学II (コミュニケーション) 看護実践基盤学III (アセスメント技術) 看護実践基盤学IV (生活援助技術) 看護実践基盤学V (診療補助技術) 看護実践基盤学VI (看護過程) 看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 看護研究 卒業研究
専任	准教授	狩谷 恭子 (54)	平成29年4月	看護実践基盤学IV (生活援助技術) 看護実践基盤学V (診療補助技術) 看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 健康生活看護学 (成人・慢性期) 健康生活看護学(成 人・回復終末期) 健康生活看護学 実習(成人) 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 卒業研究

専任	准教授	大内 隆 (59)	平成29年4月	健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究
専任	講師	木部 美知子 (62)	平成29年4月	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基盤学Ⅵ(看護過程) 看護実践基盤学実習(基礎)1 看護実践基盤学実習(基礎)2 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学実習(在宅) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	鈴木 久美子 (57)	平成29年4月	健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) チーム医療 看護マネジメント 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究
専任	講師	瀬戸 愛子 (47)	平成29年4月	フレッシュヤーズセミナー 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究
専任	講師	鈴木 直子 (41)	平成29年4月	フレッシュヤーズセミナー 看護実践基盤学実習(基礎)1 看護実践基盤学実習(基礎)2 健康生活看護学実習(老年)1 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護方法論1 公衆衛生看護活動論 公衆衛生看護学実習A 公衆衛生看護学実習B

専任	講師	鈴木 裕子 (52)	平成30年4月	看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 地域養生看護学 (在宅援助) 地域養生看護学 実習(在宅) 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護 方法論2 公衆衛生看護学 実習A 公衆衛生看護学 実習B				看護実践基盤学 ——実習(基礎)1 看護実践基盤学 ——実習(基礎)2 地域養生看護学 (在宅援助)※ 地域養生看護学 ——実習(在宅) 看護学シミュ ——レーション 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護 ——方法論2 公衆衛生看護学 ——実習A 公衆衛生看護学 ——実習B	平成29年3月 鈴木裕子講師就任辞退(29) 〔後任未定〕平成30年4月 から専任教員採用予定 なお、1年次配当の看護実践 基盤学実習(基礎)1は、 他に担当教員がいるため 支障はない
専任	講師	樫山 定美 (58)	平成29年4月	フレッシュセミナー 看護実践基盤学Ⅲ (アセスメント技術) 看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 健康生活看護学(成 人・周手術期) 健康生活看護学 実習(成人) チーム医療 クリティカルケア 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス					
専任	助教	丸山 恵子 (58)	平成29年4月	フレッシュセミナー 看護実践基盤学Ⅱ (コミュニケーション) 看護実践基盤学Ⅲ (アセスメント技術) 看護実践基盤学Ⅳ (生活援助技術) 看護実践基盤学Ⅴ (診療補助技術) 看護実践基盤学 Ⅵ(看護過程) 看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 健康生活看護学 実習(成人) 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス					
専任	助教	片寄 泰子 (47)	平成29年4月	看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術 レファレンス				看護実践基盤学 ——実習(基礎)1 看護実践基盤学 ——実習(基礎)2 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術 レファレンス	平成29年3月 片寄泰子助教就任辞退(29) 〔後任未定〕平成30年4月 から専任教員採用予定 なお、1年次配当の看護実践 基盤学実習(基礎)1は、 他に担当教員がいるため 支障はない
専任	助教	鈴木 祐子 (49)	平成29年4月	フレッシュセミナー 看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 災害看護演習 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス					

専任	助教	柴崎 真澄 (58)	平成29年4月	看護実践基盤学 VI(看護過程) 看護実践基盤学 実習(基礎)1 看護実践基盤学 実習(基礎)2 健康生活看護学 (成人・急性期) 健康生活看護学 実習(成人) チーム医療 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス					
専任	助教	木村 奈緒 (28)	平成29年4月	フレッシュセミナー 看護実践基盤 学実習(基礎)1 看護実践基盤 学実習(基礎)2 看護学シミュ レーション 看護学統合実習					
専任	助教	河田 真理子 (56)	平成29年4月	看護実践基盤 学実習(基礎)1 看護実践基盤 学実習(基礎)2 健康生活看護学 実習(母性) 健康生活看護学 (小児援助) 健康生活看護学 実習(小児) 看護学シミュ レーション 看護学統合実習					
専任	助教	池田 真由美 (55)	平成29年4月	看護実践基盤 学実習(基礎)1 看護実践基盤 学実習(基礎)2 健康生活看護学 (母性援助) 健康生活看護学 実習(母性) 健康生活看護学 実習(小児) 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス					
専任	助教	大河内 敦子 (43)	平成29年4月	看護実践基盤 学実習(基礎)1 看護実践基盤 学実習(基礎)2 健康生活看護学 実習(精神) 看護学シミュ レーション 看護学統合実習 看護援助技術レ ファレンス					

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	教授	山崎 洋次 (69)	平成29年4月	疾病治療論1 疾病治療論2 疾病治療論3 放射線と健康支援 緩和ケア						
兼担	教授	金 容必 (48)	平成29年4月	微生物学						
兼担	教授	福田 幸夫 (56)	平成30年4月	社会福祉学 保健医療福祉 行政論 チーム医療						
兼担	教授	小池 久恵 (58)	平成29年4月	英語A1 英語A2 英語C1 英語C2						
兼担	教授	叢 小榕 (62)	平成29年4月	中国語1 中国語2 世界の歴史と文化	兼任	講師	叢 小榕 (62)	平成29年4月	中国語1 中国語2 世界の歴史と文化	平成29年3月 叢小榕(教授)退職による 職名変更(29)
兼担	教授	久呉 高之 (63)	平成29年4月	哲学の世界 倫理学の世界						
兼担	教授	奥村 賢 (63)	平成29年4月	芸術の世界						
兼担	教授	菊池 真弓 (46)	平成29年4月	社会学入門 ジェンダー論						
兼担	教授	林 洋一 (66)	平成29年4月	災害からの復興						
兼担	教授	山本 佳子 (59)	平成29年4月	災害からの復興						
兼担	教授	山口 憲二 (61)	平成29年4月	経営学入門						

兼担	教授	岩田 惠理 (53)	平成29年4月	生命の科学						
兼担	教授	梅村 一之 (58)	平成29年4月	自然科学のあゆみ						
兼担	教授	蝦名 敬一 (63)	平成29年4月	食品の科学						
兼担	教授	中田 芳幸 (59)	平成29年4月	自然科学のあゆみ 災害からの復興						
兼担	教授	村田 亮 (65)	平成29年4月	健康と薬						
兼担	教授	五十嵐 幸一 (48)	平成29年4月	健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2						
兼担	准教授	大島 典子 (50)	平成30年4月	臨床心理学 コンサルテーション論						
兼担	准教授	西村 康平 (39)	平成29年4月	日本語リテラシー 英語A1 英語A2 英語C1 英語C2 ことばの科学						
兼担	准教授	能地 克宜 (42)	平成29年4月	日本語リテラシー 文学の世界						
兼担	准教授	松本 麻子 (47)	平成29年4月	日本語リテラシー						
兼担	准教授	高橋 義考 (47)	平成29年4月	コンピュータリテラシー						
兼担	准教授	中尾 剛 (49)	平成29年4月	コンピュータリテラシー	兼担	教授	中尾 剛 (49)	平成29年4月	コンピュータリテラシー	平成28年4月 教授昇格(28)
兼担	准教授	大津 理香 (43)	平成29年4月	英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2						



兼任	准教授	川井 一枝 (58)	平成29年4月	英語B1 英語B2 英語C1 英語C2						平成29年3月 川井一枝(准教授)退職(29) なお、英語B1、英語B2、 英語C1、英語C2 は、 他に担当教員がいるため 支障はない
兼任	准教授	菊池 武 (55)	平成29年4月	英語A1 英語A2 英語B1 英語B2						
兼任	准教授	高島 翠 (38)	平成29年4月	心の科学						
兼任	准教授	菅野 昌史 (48)	平成29年4月	法学入門 災害からの復興	兼任	教授	菅野 昌史 (48)	平成29年4月	法学入門 災害からの復興※	平成28年4月 教授昇格(28)
兼任	准教授	吉川 真一 (59)	平成29年4月	災害からの復興 健康と薬	兼任	教授	吉川 真一 (59)	平成29年4月	災害からの復興※ 健康と薬	平成29年4月 教授昇格(29)
兼任	助教	和足 憲明 (39)	平成29年4月	暮らしのなかの憲法 政治学入門						
兼任	助教	永田 隆之 (44)	平成29年4月	健康と薬						
兼任	助教	佐藤 陽 (39)	平成29年4月	食品の科学						
兼任	助教	佐藤 拓 (37)	平成29年4月	統計のしくみ	兼任	准教授	佐藤 拓 (37)	平成29年4月	統計のしくみ	平成29年4月 准教授昇格(29)
兼任	講師	佐藤 健二 (60)	平成29年4月	放射線と環境						
兼任	講師	柿沼 志津子 (61)	平成30年4月	放射線と人体						
兼任	講師	大島 弓子 (68)	平成29年4月	看護実践基礎学VI (看護過程)						
兼任	講師	本多 つよし (59)	平成31年4月	医療安全 チーム医療						

兼任	講師	鯨岡 アリソン (44)	平成29年4月	英語B1 英語B2				
兼任	講師	金成 綾 (崔 文僖) (44)	平成30年4月	韓国語1 韓国語2				
兼任	講師	久野 雅司 (45)	平成29年4月	日本の歴史と文化				
兼任	講師	吉村 忠晴 (51)	平成29年4月	経済学入門				
兼任	講師	梅津 実 (61)	平成29年4月	地球環境の科学				
兼任	講師	柴野 照夫 (66)	平成29年4月	健康の科学				
兼任	講師	千葉 陽子 (63)	平成29年4月	健康・スポーツ1 健康・スポーツ2				
兼任	講師	根本 昌樹 (54)	平成29年4月	健康・スポーツ1 健康・スポーツ2				

- (注)
- ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14	7
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
12	5	5	8	30	11	5	4	7	27	12	5	5	8	30
(12)	(5)	(5)	(8)	(30)						[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	5	8
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	藤岡 寛	必修	生涯発達看護学 (小児)	①	私事都合のため就任辞退 (29)			
			必修	健康生活看護学 (小児概論)	③				
			必修	健康生活看護学 (小児援助)	③				
			必修	健康生活看護学 実習 (小児)	③				
			必修	看護学シミュレーション	③				
			必修	看護学統合実習	③				
			必修	看護援助技術 レファレンス	③				
2	講師	鈴木 裕子	必修	看護実践基盤学 実習 (基礎) 1	①	私事都合のため就任辞退 (29)			
			必修	看護実践基盤学 実習 (基礎) 2	③				
			必修	地域養生看護学 (在宅援助) ※	③				
			必修	地域養生看護学 実習 (在宅)	③				
			必修	看護学シミュレーション	③				
			必修	看護学統合実習	③				
			必修	卒業研究	③				
			自由	公衆衛生看護方法論2	③				
			自由	公衆衛生看護学実習A	③				
自由	公衆衛生看護学実習B	③							
3	助教	片寄泰子	必修	看護実践基盤学 実習 (基礎) 1	①	私事都合のため就任辞退 (29)			
			必修	看護実践基盤学 実習 (基礎) 2	③				
			必修	看護学シミュレーション	③				
			必修	看護学統合実習	③				
			必修	看護援助技術 レファレンス	③				
合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
3	人	必修	20 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	17 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	3 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	3 科目
		計	23 科目	計	3 科目	計	0 科目	計	20 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計 (C)					後任補充状況の集計 (D)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」  
 ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)									
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
3	必修	20	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	17	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	3	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	3	科目
	計	23	科目	計	3	科目	計	0	科目	計	20	科目

- (注) ・ 就任辞退 (未就任) 及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の交代に関しては、止むを得ない理由と認識しており、教育効果の低下を招かないよう後任の補充を予定している。  
 学生に対しては、シラバス及び期首のオリエンテーションにおいて周知を図っている。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。



## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時  (平成28年10月)	1. 1年次後期の配当科目である「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」及び「疾病治療論Ⅰ」について、各科目内容における学修の順序性が重要となるため、教育効果があがるような授業展開とすること。	留意事項  留意事項を踏まえ、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」および「疾病治療論Ⅰ」では、科目内容に変更が生じないように留意しつつ、他科目との科目内容の重複や進捗状況を鑑みたくて、学修の順序性に齟齬がでないようシラバスの再検討や教育効果があがるよう配慮した授業を展開すべく準備をすすめてきた。	今年度授業を実施した後、成績や授業アンケートの結果を利用して科目内容の検証を実施し、必要に応じては、科目内容の変更も検討していく。 授業内容を変更する際は、事前に設置審査委員会に諮ることとする。
	2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。	留意事項  教員の補充を必要とされた「地域養生看護学（在宅援助）」については、開講年次（2年後期）までに兼任を補充して対応する予定である。	該当領域の教員が兼任教員の確保に努めていく。
	3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。	留意事項  法人の経営委員会人事検討部会について、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。  (29)	法人の経営委員会人事部会において、毎年、教員補充についての検討を行っていく。中期的には看護学部完成年度までに、各専門領域における教員組織編制の将来構想について検討していく。  (29)

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成27年4月)	該当なし			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成28年2月)	教養学部地域教養学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生の確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	改善意見	<p>入学定員200人に対して、定員未充足率の平均が0.7倍未満（平成27年度：0.45倍（入学者89名）、平成28年度0.5倍（入学者99名））となった原因としては、①東日本大震災及び原発事故の影響が続く福島県外からの入学者が回復しなかったこと、②福島県の高卒者の就職状況が好調であり大学進学から就職へシフトする傾向があったこと、③新しい学部のため学部の内容が受験生や高校へ浸透しきれなかったことの3点が考えられる。</p> <p>平成28年度の学生募集にあたっては、学部の特色の一つである「地域基盤型職業人の養成」をオープンキャンパス、高校訪問、各種イベントを通じて理解・促進を図るとともに、大学ホームページ、各種広報媒体を通じて積極的にPRを行った。</p> <p>また、対受験生だけではなく、地域社会との連携の緊密化を図るために発足させた「地域連携協議会（いわき明星大学と地域の高校及び地域の企業との連携構築のための協議会）」の活動を通じて、地域連携の実績を積み重ねながら、大学と地域との連携構築に努めた。特に地元高校に対しては、学部の教員が高校のキャリア教育に協力し、その交流を通じて学部の教育内容・教育方法の理解に努めた。</p> <p>なお、平成28年度の入学者数は99人であり、未だ定員充足には至っていないが、平成27年度の入学者数89人と比較すると10人増加した。</p> <p>(28)</p>	<p>いわき明星大学は、平成29年度開設を目途として、看護学部の設置を計画しており、平成28年3月31日に設置認可申請を行った。看護学部の入学定員は80人を計画しており、教養学部の入学定員200人から定員を振り替える計画であり、看護学部が認可された場合には、教養学部の入学定員を80人減じて120人とする予定である。</p> <p>教養学部では入学定員の減と併せて、学生を確実に確保するため、「地域連携協議会」における参画高校との連携強化をはじめ、本学独自の大学説明会の実施、オープンキャンパスの実施回数の増、高校教員・高校生保護者を対象としたキャリア講演会の実施、在学生によるいわき駅前サテライトオフィスを活用した広報活動の実施など、教養学部のさらなる理解促進、浸透を図るための取組みを実施する。</p> <p>また、高大接続の一環として、教養学部学生と高校生による「地域の将来」をテーマとした連携授業をはじめ、教養学部教員による「地域と社会」「震災復興」をテーマとした出張講義、教養学部の初年次教育科目の高校教員への授業公開を実施することにより、高校との連携・交流に努める。</p> <p>なお、県外からの学生を確保するために、引き続き大学ホームページやSNSを利用した「教育環境の安心・安全」を呼びかけることとする。</p> <p>(28)</p>



<p>設置計画履行状況調査時 (平成29年2月)</p>	<p>教養学部地域教養学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>教養学部地域教養学科が開設以来、入学者が89名、99名となっており、前年度履行状況での指摘もあり、平成29年度の看護学部設置にあわせて、教養学部の入学定員を200名から120名に変更した。</p> <p>平成29年度の募集においては、祝祭日の授業日を利用した普通の大学の授業風景を見学できる「大学見学会」やオープンキャンパスの開催日を増加させ、高校生がキャンパスに来る機会を増加させた。</p> <p>また、地元いわき市からの入学者獲得に重点をおき、市内の高校訪問のほか、高校内進学ガイダンス参加や一日総合大学（高校生が本学キャンパスで授業を受ける高校行事）などを実施した。さらに今年度より高校PTA活動へも参画、本学のキャリア教育担当教員による「進学×就職」をテーマとした講演会をおこない、教養学部の新たな教育資源を全面的にPRした。</p> <p>さらには、教養学部2年次のキャリア教育をいわき市の「大学等と地域の連携した「まち・ひと・しごと」創生推進事業」と連携させた「地域連携型PBL—地方創生に向けた、いわき市の課題を中心に—」を実施し、学生が行政や企業との連携した学修をし、それぞれの課題について提案することで、地域社会に教養学部の教育内容を広く周知することができた。</p> <p>しかしながら、平成29年度の入学者は75名で0.62倍であった。</p> <p>(29)</p>	<p>平成30年度の募集においては入学定員の120名を確保することを目標として、オープンキャンパスや大学見学会、高校訪問、会場ガイダンス、高校内ガイダンスの際に、教養学部で行っている教育内容についての理解促進、浸透を図っていく。</p> <p>特に大学見学会の実施回数を増加させることやオープンキャンパスのアクセスバスの増便などにより、高校生との接触機会の増加に努め教育内容の周知を図る。</p> <p>さらに、設立から3年目となる「いわき明星大学地域連携協議会」において、地域の行政や企業、地元高校との連携の強化して、昨年度に引き続き地域連携型PBLの実施や高校との連携授業の実施をしていくことで、地域社会との連携を密にし、地元いわきにおいて教養学部の教育内容について更なる理解促進、浸透を図っていく。</p> <p>また、募集・広報エリアの見直しを実施し、福島県外から学生を確保するために、高校訪問やガイダンス参加を増加させていく。なお、引き続き県外からの学生を確保するために、引き続き大学ホームページやSNSを利用した「教育環境の安心・安全」を呼びかけることとする。</p> <p>(29)</p>
----------------------------------	--	-------------	---	--

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。

- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

## 7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

### (2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

- (1) 委員会の名称：FD・SD委員会
- (2) 委員会の構成：学長が指名する委員長1名及び委員7名
- (3) 委員会規程

#### いわき明星大学FD・SD委員会細則

平成19年4月1日  
制 定

- (趣旨)  
 第1条 この細則は、いわき明星大学学則(昭和62年4月1日)第65条第2項及びいわき明星大学大学院学則(平成4年4月1日)第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会(以下「委員会」という。)の運営について定めるものとする。
- (審議事項)  
 第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。  
 (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項  
 (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項  
 (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項  
 (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行  
 (5) 授業評価の実施と結果に関する事項  
 (6) 職員のSDに関する事項  
 (7) その他FD・SDに関する事項
- (委員会の構成及び任期)  
 第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。  
 (1) 各学部を代表する教員  
 (2) 事務局を代表する職員  
 (3) その他学長が必要と認めた者  
 2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。  
 3 委員の任期は、学長が定める。
- (委員長)  
 第4条 委員会に委員長を置く。  
 2 委員長は、学長が指名する。
- (委員会の招集)  
 第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- (任務)  
 第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。
- (雑則)  
 第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。
- (事務)  
 第8条 委員会の事務は、教務学生支援センターが当たる。
- (改廃)  
 第9条 この細則の改廃は、学部長会の意見を聴いて、学長が行う。
- 附 則  
 この細則は、平成19年4月1日から施行する。  
 附 則(平成22年4月1日)  
 この細則は、平成22年4月1日から施行する。  
 附 則(平成26年4月1日)  
 この細則は、平成26年4月1日から施行する。  
 附 則(平成27年4月1日)  
 この細則は、平成27年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

原則、毎月1回実施

ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合もある。

平成25年度実施回数：11回、平成26年度：11回、平成27年度：14回、平成28年度：13回

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業改善アンケート結果による教員顕彰（委員会ではなく学長が実施）

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施  
委員会において企画立案し、実施。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして、終日実施。
- ・授業改善アンケートの実施  
前期及び後期の授業終了時期に各担当教員をとおして、授業内容に関するアンケートを学生に対して実施。
- ・授業改善アンケートに基づく教員顕彰  
授業改善アンケートの評価の高い教員へ対する顕彰を実施。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施  
全学FD・SD研修会（平成28年度：2回）  
第1回（平成28年9月）：参加率 84.2%  
第2回（平成29年3月）：参加率 87.8%
- ・授業改善アンケートの実施  
前期：199科目（アンケート実施科目数）  
後期：211科目（アンケート実施科目数）
- ・授業改善アンケートに基づく教員顕彰  
平成27年度の授業改善アンケートの結果から、平成28年度に「優秀教育賞」として表彰状および10万円の教育・研究費を授与した。  
平成28年度実績：科学技術学部1名、教養学部3名、薬学部2名（教員数割合から顕彰人数を決定）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会については、大学改革の喫緊の課題をテーマとし、アクティブラーニングの実践等、普段の授業展開（改善）に貢献している。
- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をとおして、担当教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みづくりを検討している。  
なお、今回対象者はいないものの、授業改善アンケートの平均点が著しく低い教員には、点数の高い授業の見学と改善案の提出を求めることとしている。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期  
前期及び後期の授業終了時期に実施（前期：7月，後期：1月）
  - b 教員や学生への公開状況，方法等  
教員：担当科目の結果をフィードバック、ホームページで公開  
学生：ホームページで公開

### （3）自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
・自己点検・評価時に実施予定
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期  
・平成23年4月 公表
  - b 公表方法  
・大学ホームページ上に公開中
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・平成18年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受け、適格であるとの認証評価を得た。
  - ・平成23年度に再度、評価機関（大学基準協会）評価を受け、適格であるとの認証評価を得た。
  - ・平成30年度に再度、評価機関（大学基準協会）評価を受ける予定。

### （4）情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書
- a ホームページに公表の有無 ( 無 )
  - b 公表時期（未公表の場合は予定時期） ( 2017 年 5 月 31 日 )